



等友

手をつなぐとも

S 60
i 10
i 生

〒111-0041
台東区元浅草
2-10-17
3841-2844
浄土真宗
勝龍山
等覚寺
住職
朝倉馨

平成23年9月
第96号

親鸞聖人750回御遠忌団体参拝

人は必ず死ぬのだから
いのちのバトンタッチがあるのです。

死に臨んで先に往く人が
「ありがとう」といえば
残る人が「ありがとう」と忘える
そんなバトンタッチがあるのです。

死から目をそむけている人は
見そこなうかもしれません
目と目で交わす、一瞬の
いのちのバトンタッチがあるのです。

青木新門氏の詩
「いのちのバトンタッチ」

住職から一言



温壽院釋尼貞圓 坊守 朝倉 末子)に
まずは感謝の念仏合掌をいたします。

坊守 住職を助けお寺を維持するための
援助役)として懸命の努めを重ねてくれた
有難い一生でした。

坊守の仕事は色々な意味で頭も体も人一倍
使う重労働だと思っています。家族と共に愚
痴、泣き言をいわず八十九歳まで頑張っ
てくれた有難さは唯々頭が下がり合掌する
ばかりです。

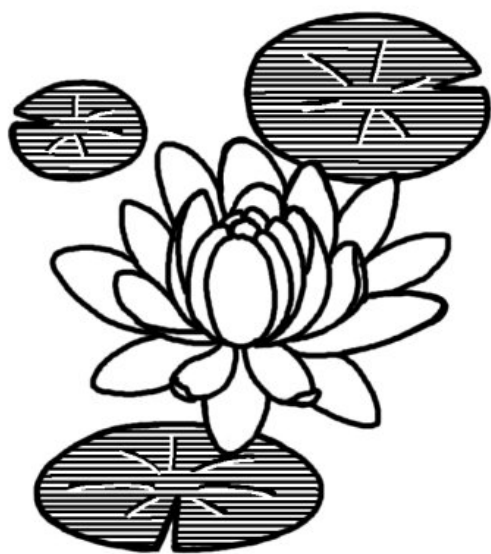
お浄土ではご門徒様の仏様方とニコニコ
と語り合っている事だと思っております。

生前暗い顔イヤな顔は一切見たことがなく、

おだやかな毎日でしたが、ご門徒さんに何
か心配事をお聞きすると自分の事のように
心配し、住職に伝えていました。と
ても心優しい人でした。
しみじみと有難い坊守だったと感謝して
おります。

最後になりましたが、通夜葬儀にはお忙
しい中大勢の方々にお参り頂き本当に有難
いことでした。この場を借りて御礼申し上
げます。

香



親鸞聖人七百五十回御遠忌

平成二十三年四月二十一日から一泊二日で、有志のみなさまと京都へ御遠忌の団体参拝に行っていました。

等覚寺を含め五ヶ寺合同の四十二名で山東本願寺の御遠忌法要に出席です。

東本願寺には全国から門徒が集まり、御影堂は満堂で約三千人もの人と一緒に同朋唱和 みんなで一緒に口に出してお経を読む）でお勤めいたしました。

法要もちろん素晴らしかったのですが、個人的に一番目を引いたのが、京都の町自体にも御遠忌の色が出ていたことでした。

京都の市営バスも御遠忌期間中は親鸞聖人縁の地を結ぶ御遠忌専用のバスを

特別に運行していたり、浄土真宗関連施設だけでなく、親鸞展をやっている京都市美

術館にまで御遠忌スタッフが並んでいる．．．何というか、圧巻です。

法要後は修復中の阿弥陀堂の瓦屋根の見学もでき、あらためて御影堂・阿弥陀堂の大きさを実感することができました。

その後ホテルに戻り、こちらにも楽しみにしていた青木新門氏による講演会です。

青木新門氏は、ご存知の方も多いと思いますが、映画「おくりびと」の原作、納棺夫日記」の作者の方。

お話は映画「おくりびと」が公開されるまでの紆余曲折や主演の本木雅弘さんとのエピソードを楽しく話していただいたのから始まり、青木氏ご自身が考えている宗教観や「いのち」のことまでお話していただきました。青木氏は富山ご出身で少しなまりのあるやさしい口調で、とても聞きやすくすぐに引き込まれていきました。

その中でも一番はっとさせていたただいたお話を一つ簡単にご紹介させていただきま
す。

死を実際に見る、ということ

～二人の14歳の少年の話～

平成九年に起きた、さかきばらせいと
と名乗り殺人事件を起こしてしまったの
は十四歳の少年でした。その事件の供述
調書によると、なぜ人を殺したのかとい
う質問に対し彼はこう語っていたそうで
す。

僕は家族のことはなんとも思わないが、
おばあちゃんだけは大切な人だった。け
れど小学校の時におばあちゃんは死んで
しまった。

大切なおばあちゃんを奪った死というこ

とがわからないので、まずはかえるやな
めくじ、そして猫を殺してみた。しかし
まだわからなかったので、ついに人を殺
してみたんだという。

昨今は子ども達に人が死ぬ場を見せま
い、死ということ語るまいという風潮
がある。こういった社会が生んだのがこ
の子ではないか。

また、もう一人九州の十四歳の少年の
お話もされました。

九州の浄土真宗の寺院に行った時、あ
る文集をもらった。その寺の檀家総代の
人が亡くなる時、家族全部17人を3日
前から自分のまわりに置いて、自分の死
にざまを見せながら亡くなった。その親
戚が書いた文集である。

その文集の中で感銘を受けたものがあり、それが14歳のお孫さんが書いたものだった。

ぼくは、おじいちゃんからいろんなことを教えてもらいました。特に大切なことを教えてもらったのは、おじいちゃんが亡くなる前の3日間でした。

いままでテレビなどで人が死ぬと、まわりの人がとてもつらそうに、泣いているのを見て、なんでそこまで悲しいのだろうと思っていました。

しかし、いざ、ぼくのおじいちゃんが亡くなろうとしているところに、そばにいて、とても淋しく、悲しく、つらくて、涙がとまりませんでした。

そのとき、おじいちゃんはぼくに、ほんとうに人の命の尊さを教えてくださったような気がしてなりません。

それに、最後にどうしても忘れられないことがあります。それはおじいちゃんの顔です。おじいちゃんの遺体の笑顔です。とてもおおらかな笑顔でした。いつまでもぼくを見守ってくださることを約束しておられるような笑顔でした。おじいちゃん、ありがとうございました」

この二人の違いは臨終の場にいた、五感で死を認識した 死ぬ現場を見たか見ないか、だけの違いです。今の平和の時代、頭でしか死を認識していない。

昨今は死ぬということから遠ざかる風潮があるが、そうではないんです。死を五感で感じるのが大切なんです。

私たちは東日本大震災で多くの人の死を五感で感じる事ができたのではないかと思います。実際にこれまで無縁社会だと危惧されてきた日本が、大震災を境にお互いが支え合う有縁社会になったのです。

青木新門氏のお話より抜粋)

このお話を聞いてはっとしました。

同じ十四歳の少年でも死を見ていない、というだけで過ちを犯してしまう可能性がある。しかも親は良かれと思って、子どもを死から遠ざけてしまうのではないかと。

※過去のある東京都のアンケートでは、葬儀に参列したことのあつた子どもは7割8割いたが、臨終の場に立ち会つたことのある子どもは5パーセントに満たないという。

二日目。

外を眺めると曇り空・・・天気心配をしつつ出発します。

まずは京都市美術館にて親鸞展を観覧です。

親鸞展では浄土真宗・親鸞聖人にまつわる国宝や重要文化財など数多く出品されておりました。

やはりこちらでも人気でかなり混み合っていたため、あらためてゆっくり見たいな、と思いました。



親鸞聖人筆 正信偈

その後昼食は南禅寺の近くにある「順正」というお店で、湯豆腐をいただきました。やはり京都といえは湯豆腐でしょう、食べてみると、お豆腐自身の味、大豆の香りが口の中いっぱいに広がってきます。お座敷にならんでみんなで一緒にご飯を食べ、他のお寺の門徒さんたちとも親睦が深まり、楽しいお昼でした。

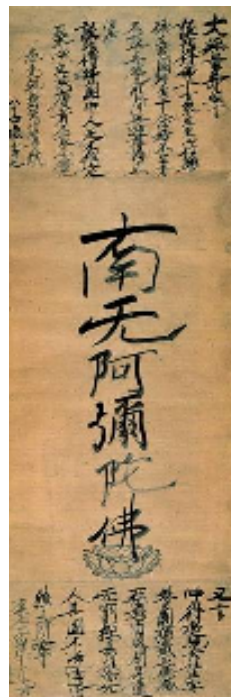
しかし、窓の外からザーっという大きな音が．．．湯豆腐を食べてる最中に、それまでなんとか持ちこたえていた天気がついに崩れ、雨が降ってきてしまいました。なんとドシャブリです。。。

冷たい雨が降りしきる中、西本願寺への参拝。今回は特別に内部までご案内いただき、国宝の建物や門等を見学することができました。西本願寺もやはりいいものですね。西本願寺はあまり焼失してな

いので建物の歴史が古く、桃山文化を色濃く残す屏風やふすま、柱や壁にいたるまで、すべてのものが赴きがあり、豊臣秀吉が同じ廊下を通ったのかな、などと勝手な感慨に浸ることもできました（笑）



親鸞聖人絵像 安城の御影



親鸞聖人筆
六字名号

誰一人ケガ・病気もなく無事に帰ってくる
ことができた御遠忌団体参拝。

本山に上山し、人であふれかえった満堂
の御影堂という一つの場所で、同じお勤
めを多くの人とともにすることで、あら
ためて、自分と同じように真宗の教えに
出遭ってその教えに生きている人々がい
るんだということを目の当たりにするこ
とができました。

今回は五十年に一度という大変大きな
行事でしたが、みなさんもぜひ本山であ
る京都の東本願寺に足を運んでみてはい
かがでしょうか。全国一万数千ヶ寺の真
宗大谷派寺院の本山であり、教えを脈々
と発信してきたお寺ですから実際に訪れ
てみると何か五感で感じるものがあるか
もしれませんよ。



御遠忌イメージキャラクター
鸞恩(らんおん)くん



東本願寺(上)と西本願寺(下)

坊守葬儀

平成二十三年三月二十四日に当山坊守朝倉末子 温寿院釋尼貞圓の通夜葬儀を執り行いました。

通夜葬儀にあたり、多くの皆様には、会葬いただいたこと、お世話になりましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

私共の祖母である坊守は、今まではまったくの病気知らずで健康だったので、昨年末あたりから急に体調が崩れがちになり、今年初めの検査で胃がんが見つかりました。その時にはすでに手遅れで、家での療養後三月十七日にお浄土へ還りました。

幸いにも家族のものもみな、死に目に遇えて、祖母の身をもったいのちの教え

という最後のプレゼントをありがたくいただくことができました。

これからあらたな等覚寺のスタートです。これからも皆様と一緒に歩んでいきたいと思いますので、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

東日本大震災義援金

みなさまのご協力で、東日本大震災の義援金を本山である東本願寺を通じて、八万五千八百六十円寄付させていただきました。ありがとうございました。

また、義援金箱はこれからも設置させていただきますので、引き続き東北地方へのご支援をお願いいたします。

お墓のあれこれ

お墓ってなんだろう、って思ったことあるのではないでしょうか。お墓はお骨を収める場所、先祖の霊を慰めるために建てる、いろいろ考えがあります。しかし、私たち浄土真宗ではお墓というのは、むしろ逆なんです。

ご覧になったことがある方もいると思いますが、浄土真宗の昔からのお墓には基本的に「○家之墓」ではなく「南無阿弥陀仏」と彫られています。これはここに故人が眠っていることを表すのではなく、阿弥陀如来のお力で浄土に還らせていただいたということを表しているためです。

ではお墓は何のためにあるのでしょうか。

お墓は、ご先祖あるいは故人の居場所や、必要とするからあるのではなく、私たちがご先祖・故人への感謝や敬いから建てるのです。さらに言えば、かけがえのない命の教えを私たちに伝えてくださったご先祖に感謝しつつ、「その命を一生懸命に生きてほしい」というご先祖から私たちにへの願いをあらためて聞く場でもあります。

こういったことがお墓の意味なのです。ただ、みなさんのお参りする気持ちが何よりも大切ですので、頭の片隅にでも置いておいていただければ幸いです。

ところで、お墓はみなさんからの維持費で管理しております。お墓の維持費を納め忘れてらっしゃる方はいませんか？心当たりのある方はお墓参りの際にご確認いただけますので、お気軽にお話し下

さい。

中には遠方やお身体の調子など、なかなかお参りにいらっしゃりづらい方も多いかと思っています。

そのような方もご相談に乘りますので、まずは一度お電話等でご連絡下さい。

ご披露

等友へのご懇志

栗原様 高橋様 山本様 新井様 小林様

鳴海様 仏具へ)

順不同)

いつもご支援いただきまして、誠にありがとうございます。また、他にも多数の方から等友へのご支援をいただいております。申し訳ございませんが、お名前には漏れがあるかと存じます。おっしゃっていただければ次号以降に順次ご紹介させていただきます(きたいと思っています)

編集後記

こんにちは。翔です。

今年の夏は例年にもまして酷暑となりましたが、やっと一段落してきましたね。

今回は四月に行った団体参拝の様子を中心に伝えさせていただきました。

ちよっと文章力が無く、小学生の作文のようになってしまったのはご愛嬌ということ・・・

この旅程では自由な時間があまりなかったため、京都にはまたあらためてゆくりと行きたいものです。先日の等友では、御遠忌のお土産もご紹介する、と申ししまいしましたが、前述のとおりお土産を見る時間がありませんでした。ゴメンナサイ。



その代わりといっってはなんですが、七百五十回御遠忌を記念し、マンガ・スラムダンクやバガボンドといった人気作品の作者である井上雄彦氏が2枚の巨大な屏風に墨絵で親鸞聖人の姿を描き、本山に寄贈されました。

その屏風のレプリカを等覚寺内に飾りましたので、ぜひお参りの際にはご覧になってみて下さいね。

廊下にごさいますのでお声を掛けてからお入り下さい)

↑質問はこちらまで

info@tokakuji.com

☆こちらもおねがいします

等覚寺ホームページ

<http://www.tokakuji.com>

平成二十三年行事予定

十月二十三日(日) 報恩講

◎みなさまお誘い合わせの上、
お気軽にご参加ください。

平成二十三年年回表

一周忌	平成二十二年
三回忌	平成二十一年
七回忌	平成十七年
十三回忌	平成十一年
十七回忌	平成七年
二十三回忌	平成元年
二十七回忌	昭和六十年
三十三回忌	昭和五十四年
三十七回忌	昭和五十年
四十三回忌	昭和四十四年
四十七回忌	昭和四十年
五十回忌	昭和三十七年
七十回忌	昭和十七年
百回忌	明治四十五年